

名港管理組合議会2018年6月定例会について

- ・名古屋港管理組合議会6月定例会が6月7日～8日に行われました。
- ・当局提案の議案は監査委員の選任の同意案2件で、その他、議長・副議長選挙や委員会の選任などの議会人事を行いました。
- ・山口議員が企画総務委員会、高橋ゆうすけ議員が港湾建設委員会に所属。全議員参加の特別委員会としてガーデンふ頭にぎわい創出特別委員会が設置されました。
- ・高橋ゆうすけ議員が「しゅんせつ土砂の埋め立て計画」について、山口清明議員が「ヒアリ等の侵入対策」「浮き屋根式タンクの防災対策」について一般質問を行いました。他の議員からは1人だけが質問しました。
- ・議員視察4件が一括議案として提案され、そのうち、議長や副議長が行く海外視察については無駄なものとして反対しました。



名古屋港管理海愛議会での議長・副議長選挙の様子。上左：議長選、上右：副議長選、下：開票状況

主な議案に対する会派別態度(名港議会6月定例会)

名古屋港管理組合議会 2018年6月定例会 議案一覧

議案名	名古屋市会選出					県議会選出			結果	概要
	共	自	民	公	減	自	民	公		
監査委員選任の同意（組合議会議員）	○	○	○	○	○	○	○	○	同意	議選枠の監査委員。岡本善博名古屋市会議員（自民・北区）。会派バランスから
監査委員選任の同意（名古屋市監査委員）	●	○	○	○	○	○	○	○	同意	識見篠田信示（1956年生、扶桑町、愛知県総務部長を退職、黒川和博名古屋市監査委員）を選任。。
議員派遣（議長・副議長の海外派遣と議員の行政調査2件）	●	○	○	○	○	○	○	○	可決	議員派遣 ・議長（8月の7日間 ベルギー、オランダ・アントワープ港） ・副議長（7月の8日間 アメリカ・ボルチモア港、カナダ・エバレット港） ・議員1（8/1～8/3 かごしま水族館・志布志港・鹿児島港） ・議員2（8/27～8/29 台湾の基隆港・高雄港）
議長・副議長の選挙	議長：神野博史（県議会・自民・東海市） 副議長：服部将也（市議会・民主・北区）					27 山口清明（市議会・共産・港区） 27 高橋ゆうすけ（市議会・共産・南区）			2 2	

○＝賛成 ●＝反対 / 共：日本共産党 自：自民党 民：民主党 公：公明党 減：減税日本ナゴヤ

名古屋港管理組合議会 6 月定例会 一般質問（6月7日）

名古屋港のしゅんせつ土砂の埋立処分は港内処理を原則に

高橋ゆうすけ議員



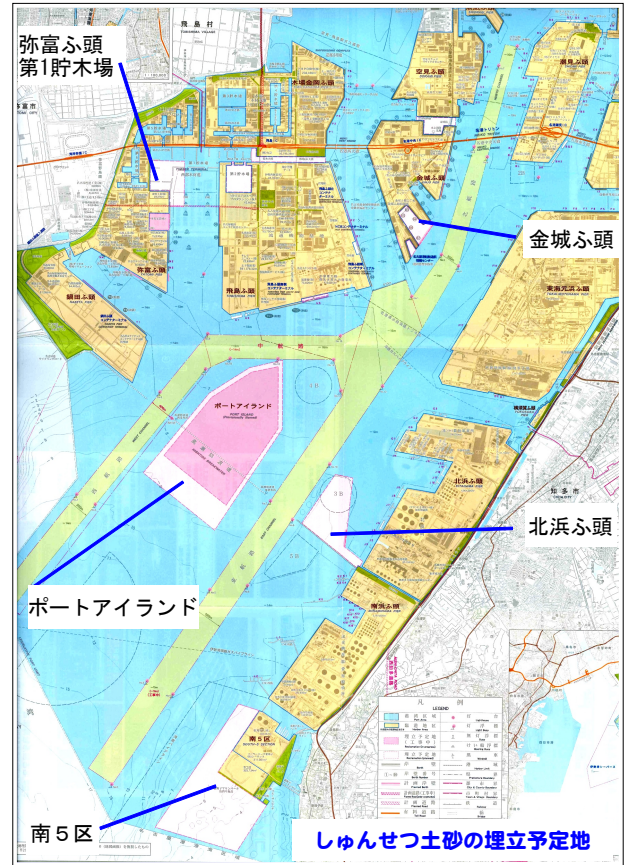
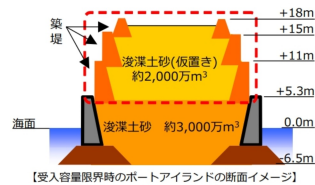
名古屋港のしゅんせつ土砂処分計画について

航路等の維持のため毎年30万 m^3 、機能強化を合わせると70万 m^3 の土砂が発生

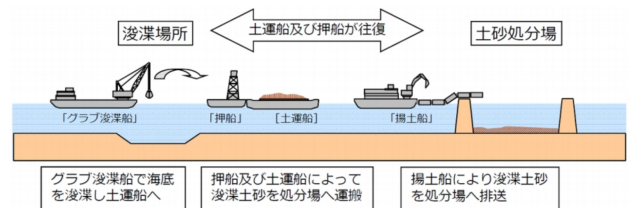
【高橋議員】名古屋港内では泊地・航路を確保するために毎年、約30万 m^3 もの土砂をしゅんせつしています。これは、名古屋港が遠浅の海域であることに加え、庄内川などの河川からの土砂が流入するために、常時しゅんせつを行わなければ、泊地・航路を確保することができないためです。それに加えて、国際競争力強化のために泊地・航路の増深も行っており、合わせて年間約60万から70万 m^3 のしゅんせつ土砂が発生しています。

ポートアイランドに高さ5.3m、3,000万 m^3 の予定を18m、5,000万 m^3 まで搬入

このしゅんせつ土砂は現在、ポートアイランドに運び込まれています。もともとの計画でポートアイランドは、海面高5.3メートル、約3,000万 m^3 のしゅんせつ土砂を受け入れるというものでした。しかし、その後しゅんせつ土砂の処分できる埋立地がないことなどを理由に、当初の3,000万 m^3 をこえ、さらに将来海面高18メートルまで、約2,000万 m^3 のしゅんせつ土砂が仮置きされ、計約5,000万 m^3 となる予定です。



【浚渫から埋立の流れ】



【国交省が検討した、浚渫土砂の埋立地候補】



満杯を理由に国交省が中空沖の埋立を検討

このポートアイランド、国土交通省によると、平成

セントレア地先公有水面埋立計画（2017年3月 国土交通省）

埋立区域の面積	約250～350ha
埋立地の計画容量	3,800万 m^3
港湾機能の強化や維持により発生する土砂	1,200万 m^3
ポートアイランド仮置土砂	2,000万 m^3
維持浚渫 30万 m^3 /年×20年	600万 m^3

30年代前半には受け入れの限界を迎えるとのことで、新たな大規模処分場の確保が急務とされています。その新たな処分場計画として、国土交通省では中部国際空港沖への約3,800万㎡のしゅんせつ土砂埋立が検討されています。

港湾計画はポートアイランド南側、南5区南側に計画

港湾計画ではどうなっているのでしょうか。2015年に改定された港湾計画の中では、ポートアイランド南側（地図示す）や南5区の南側の埋立予定地において、しゅんせつ土砂を処分する計画が示されています。これらの計画は現状の形として、南5区南側が1981年（昭和56年）に、ポートアイランド南側が1990年（平成2年）に港湾計画に示されていましたが、進められる様子がありません。様々な関係者もいて、とりまく状況もいろいろとあるのでしょうか。それでもなお計画があるということは、事業実施の見込みはあるということにも受け取れますが果たしてどうなのか。

ポートアイランド南側、南5区南側での計画は？

そこでお聞きします。現在の港湾計画では平成30年代後半を目標年次としてポートアイランド南側、南5区南側でしゅんせつ土砂の処分をするという計画になっていますが、現状計画実施に向けてどのような状況となっているか、お答えください。

事業化の目途がない、事業化を見合わせ（室長）

【企画調整室長】ポートアイランド南側の埋立予定地は、事業者である国から、「現時点では、事業実施の目途が立っていない」と聞いています。

南5区南側の埋立予定地は土地需要の具体的な見通しが立たないことや採算性の確保が難しいこと等の課題があり、事業化を見合わせています。

金城ふ頭や弥富ふ頭第一貯木場での埋立計画は？

【高橋議員】港湾計画では、処分予定地以外にも、港湾機能の強化のために、金城ふ頭、弥富ふ頭第一貯木場、北浜ふ頭などでも埋め立ての計画がされています。これらの埋め立て予定地はどうなっているか。北浜ふ頭については、国際バルク戦略港湾と



名古屋市政資料No.199（名港議会2018年6月定例会）

して選定されたものの、国際情勢などの変化によって予算も立てられない状況で実質ストップしていますが、金城ふ頭や弥富ふ頭第一貯木場については埋め立てが進められる見通しと聞いています。

そこでお聞きします。金城ふ頭や弥富ふ頭第一貯木場などの埋め立て予定地については、どこから土砂を調達するつもりですか。埋め立て規模はどれぐらいとなる見込みですか。

港内のしゅんせつ土砂を有効活用する。金城ふ頭に約240万㎡、第1貯木場北側に約147万㎡（部長）

【建設部長】現在、金城ふ頭では、完成自動車取扱機能の集約・拠点化や自動車専用船の大型化への対応に向け、ふ頭再編改良事業に取り組んでおり、また、弥富ふ頭第1貯木場北側では、コンテナ貨物の増加等に対応した物流用地の確保を計画し、それぞれ埋立造成に向け手続きを進めております。

これらの埋立造成は、港湾施設の機能維持や整備に伴い発生する港内のしゅんせつ土砂を埋立用材として有効活用していく予定です。埋立予定地の埋立容量としては金城ふ頭で約240万㎡を、弥富ふ頭第1貯木場北側で約147万㎡を予定しています。

しゅんせつ土砂の埋立以外で有効活用の検討を

【高橋議員】ところで、名古屋港から発生するしゅんせつ土砂は、埋め立てる以外に方法はないのでしょうか。名古屋港のしゅんせつ土砂については2016年に環境大臣から国土交通大臣に対して、「しゅんせつ土砂の低減等を検討し、新たな海域処分は可能な限り回避する」意見が出されています。名古屋港から発生し続けるしゅんせつ土砂の行き場がないこと、そのことによる将来の名古屋港の機能維持に危機感があるということでしょう。必要な開発は否定しませんが、実態に見合わない、大型船を見込んだ岸壁増深などは、しゅんせつ土砂を増やす過剰な開発じゃないか、このことはこれまでも指摘をしてきましたが、今後の開発について、いよいよ見直す時期になってきているのではありませんか。同時に新たな埋め立てをしないためにしゅんせつ土砂の有効活用ができないか、ということも考える必要があるでしょう。そこでお聞きします。環境大臣の「しゅんせつ土砂の低減等を検討し、新たな海域処分は可能な限り回避する」という意見を踏まえて、名古屋港で発生したしゅんせつ土砂の海域処分を可能な限り回避するための有効活用についてどのような検

討がされてきたのか、お答えください。

【しゅんせつの計画（港湾計画）】

人工干潟の造成に関する実証実験をした（室長）

【企画調整室長】中部地方整備局は、良好な港湾環境の形成の観点から、平成24年度から29年度まで、しゅんせつ土砂を一部活用した人工干潟の造成に関する実証実験を、ポートアイランドの東側において行った。

ポートアイランドの仮置き土砂2000万㎡はどうするのか

【高橋議員】ポートアイランドに仮置きされる約2,000万㎡の土砂は今後どうするのか。現在の港湾計画では、仮置き土砂についても港内で埋め立てを行うための計画土量に含まれていますが、ポートアイランドは補強も行われており、もし災害が発生しても、復旧可能な程度の被災となる見込みです。今後のポートアイランドの土地利用についてもまだ決まっていません。土砂を移動させなければならないのか、それとも現在の土砂をそのままポートアイランドで利用するのかどうか、そのこともまだ決まっていません。この仮置き土砂、私はすぐに他の埋め立て予定地へ移動させる必要はないと思いますが、港湾管理者として、今すぐに動かす必要性についてどのように考えていますか、また今後のポートアイランドの土地利用を考えるうえで必ず動かさなければならないものなののでしょうか、お答えください。

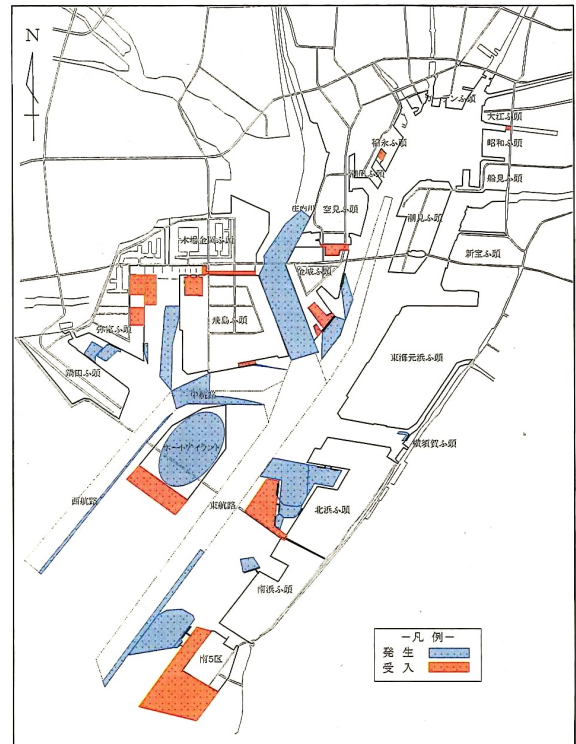
有効な土地利用のためには移動も必要と考えており、今後の重要課題（室長）

【企画調整室長】ポートアイランドは、港湾計画において、将来の大水深岸壁及び埠頭用地等のための開発空間として留保しており、現在は、名古屋港内から発生するしゅんせつ土砂を仮置きできる唯一の大規模なしゅんせつ土砂処分場となっています。

平成30年3月に名古屋商工会議所が「名古屋港ポートアイランド将来利用に向けた提言」を取りまとめました。

本組合では、その提言を受け、ポートアイランドの将来の利活用に関し、社会情勢の変化や要請を的確に捉えるなどの情報を収集するとともに、関係者との議論を深めています。

ポートアイランドの仮置き土砂の移動は、有効な土地利用を行う上で基本的に必要であると考えており、その取扱い、今後、取り組むべき重要な課題と認識しています。



しゅんせつ土砂は港内処分を基本とするのか（再質問）

【高橋議員】ポートアイランド南側や南5区南側の埋め立て予定地、進めることが難しいとの答弁でした。中部国際空港沖でも、様々な関係者がおり、環境影響評価方法書に対する住民のみなさんからの意見でも、多くの方から埋め立てされると困るという声もある中、果たして新たな大規模処分場として進められるのかは疑問に感じます。

それを踏まえて1点再質問いたします。

金城ふ頭や弥富ふ頭第一貯木場埋め立て予定地への土砂は港内のしゅんせつ土砂を有効活用していくのですが、しゅんせつ土砂を港内で活用することで港湾機能の充実が効率的に図れるということですよ。であれば港湾計画で示された埋め立て計画を進めるためには、しゅんせつ土砂を港外に持ち出すよりもまずは優先して港内で処分・活用する必要があるかと思えます。基本的に名古屋港内で発生したしゅんせつ土砂は、港湾計画で位置づけられている埋め立て予定地での処分・活用が優先されるという考え方よろしいですか。



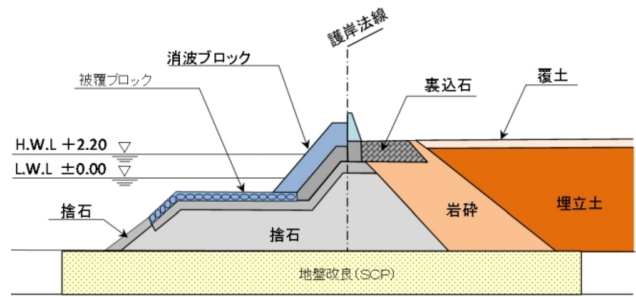
しゅんせつ土砂の発生と受入れの整合を図っているが、新たな処分場も必要（室長）

【企画調整室長】名古屋港は、港湾機能を維持強化する上で、継続的に航路や泊地のしゅんせつ事業を行っていくことが不可欠です。港湾計画においては、しゅんせつ土砂の発生と受入れの整合を図っているものの、事業化を見合わせている埋立予定地もあることから、新たな処分場は必要であると認識しています。

今後、本港を取り巻く環境の変化に適切に対応し、しゅんせつ土砂を安定して受け入れていくことができるよう取り組んでいきます。

港内で発生したしゅんせつ土砂の処分について、他の地域へ負担を押し付けることがないように（意見）

【高橋議員】しゅんせつ土砂は港内で処分できるように取り組んでいくと。とても大事なことです。第一は中部国際空港沖に新たな埋立地を作るわけではない。その姿勢をこれからもしっかりと持ち続けていただきたい。ポートアイランドの仮置き土砂は、いつ、どれだけの量の土砂を移動するのか、決まっていません。今すぐどうにかしなければいけないわけではない、念を押しておきたいと思います。有効活用については、人工干潟造成の実証実験を行ったとのことで、課題も見つかっているようですが、これはこれで進めながら、もっと広い視野で有効活用策を検討すれば、しゅんせつ土砂の処分量は更に減るでしょう。管理組合にはそこに力を入れていただきたい。港内で処分できないから港外へ出してもいいというものではありません。改めて港内で発生したしゅんせつ土砂の処分について、他の地域へ負担を押し付けることがないようにと意見を申し上げて、私の質問を終わります。



埋め立て護岸の構造（中空沖の例）

名古屋港管理組合議会 6 月定例会 一般質問（6月7日）

ヒアリ等の特定外来種などの侵入対策／ 浮き屋根式巨大タンクの防災対策を 山口きよあき議員



ヒアリ等の対策について

昨年5月以来、名古屋港など12都府県で 特定外来生物のヒアリを確認

【山口議員】 特定外来生物であるヒアリですが、昨年5月に兵庫県尼崎市で、中国広東省の南沙港から運ばれてきたコンテナから見つかって以来、現在までに12都府県でその存在が確認されています。愛知県では、名古屋港から輸入されたコンテナ等から弥富市、飛島村、名古屋市及び春日井市で合計1100匹以上が確認されています。

夏、気温が高まるとヒアリの活動が活発になるとも言われており、あらためて社会的関心も高まります。関連して、いくつか新たな動きも報じられています。

新たな外来アリが350mもの巨大な巣をつくる

一つは、名古屋港では特定外来生物のヒアリやアカカミアリとは別に、侵略性の高い外来アリ、「ブラウジングアント」（別名アリクイアリ、日本ではハヤトゲフシアリというそうです）が発見されたことです。



ブラウジングアント

昨年7月に飛島ふ頭のコンテナターミナル近くで長さ約350mもの巨大な巣をつくっているのが発見されました。どうも在来種を駆逐して繁殖していたようですが、いつから定着していたのかは不明です。その後、鍋田ふ頭でも見付き愛知県は弥富市や飛島村とこの4月からあらためて駆除に乗り出しました。

個人取引の輸入品からもヒアリを発見

二つめに、5月10日新たにヒアリが確認されたことです。見つかった場所が問題です。大阪府八尾市の一般家庭内で、コンテナを使って輸入された中国製の家電製品の段ボール箱を開けたら、ヒアリの女王アリ

の死骸が出てきたのです。

インターネットを通じて海外の業者から商品を買う個人間取引が増加しています。様々な貨物が一つのコンテナに混載されて運ばれてきます。港を素通りするコンテナがブラックボックスと化してはいないでしょうか。

神戸市がヒアリ対策マニュアルを作成

三つ目に、この3月に神戸市が全国の自治体では初めてのヒアリ等対策マニュアルを作成したことです。その特徴は、コンテナヤードでの発見時の行政機関の対応だけでなく、コンテナからの荷出し中に見つけた場合の事業者の対応についてもマニュアル化していることです。

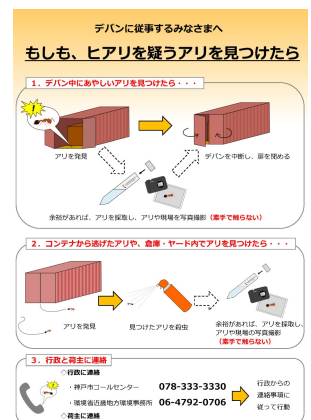
神戸市のマニュアルとポスター

神戸市 ヒアリ等対策マニュアル

第1版

神戸市

平成30年3月策定



ヒアリ確認状況（2018年4月5日 環境省）

発表日	発見地点	発表日	発見地点	発表日	発見地点
2017. 6. 13	兵庫県尼崎市	2017. 8. 9	岡山県倉敷市	2017. 10. 6	横浜市
2017. 6. 18	神戸市	2017. 8. 17	埼玉県狭山市	2017. 10. 12	北九州市
2017. 6. 30	弥富市	2017. 8. 18	福岡市	2017. 10. 14	京都府向日市
2017. 7. 4	大阪市	2017. 8. 21	岡山県倉敷市	2017. 10. 16	横浜市
2017. 7. 6	品川区	2017. 8. 25	広島市	2017. 10. 20	北九州市
2017. 7. 7	品川区	2017. 8. 27	広島市	2017. 11. 6	浜松市
2017. 7. 10	飛島村・春日井市	2017. 8. 28	静岡市	2017. 11. 7	名古屋港
2017. 7. 13	品川区	2017. 8. 30	静岡市	2017. 11. 9	広島県呉市
2017. 7. 14	神戸市	2017. 9. 1	名古屋市	2017. 11. 13	広島港
2017. 7. 14	横浜市	2017. 9. 6	横浜市	2017. 11. 22	広島県呉市
2017. 7. 21	福岡市	2017. 9. 15	北九州市	2017. 11. 22	広島港
2017. 7. 25	大分県中津市	2017. 9. 20	岡山県笠岡市	2017. 11. 22	広島県呉市
2017. 7. 27	福岡市	2017. 10. 2	北九州市	2018. 5. 10	大阪府八尾市
2017. 8. 4	弥富市	2017. 10. 3	弥富市		

名古屋港での対策は今のままでいいのか

さて、名古屋港では今年度、「名古屋港ヒアリ調査等委託」として1943万7千円が予算化され、コンテナターミナルでは毎月、ターミナル周辺緑地では年4回の生息調査が予定されています。ヒアリが生息しにくいコンテナヤードの環境整備、地面での対策は既に取り組みられています。しかしそれで十分ですか。

ひとつはコンテナ内部の対策です。神戸市のマニュアルではコンテナからの積荷取り出し＝業界ではデバンというそうですが、デバン時にヒアリ等を発見した場合の初動防除マニュアルがきめ細かく規定されています。デバン中に発見したら、積み出しを中止し、扉を閉めることとし、デバン関連事業者には殺虫剤やサンプルとしてのアリを捕獲するための道具を常備するよう求めています。

港湾管理者はいちいちコンテナを開閉して中身をチェックしません。コンテナ内部に紛れ込んでいたヒアリ等を国内に侵入させないためには、事業者との緊密な連携が求められています。そこで三点うかがいます。

コンテナからの積荷取り出し時のヒアリ等への対応はどうなっているか

名古屋港では、コンテナからの積荷取り出し時のヒアリ等への対応はどうしていますか。殺虫剤やサンプル用捕獲キットなどの確保、荷主や運送業者等との連携はどうなっていますか。

事業者等がすべての個体の殺虫処分しコンテナを燻蒸消毒。荷主や港湾運送事業者等とは講習会などで情報共有などで連携（部長）

【港営部長】コンテナからの積荷の取り出し時にヒアリが発見された場合には、事業者等がすべての個体の殺虫処分、コンテナの燻蒸消毒を行います。さらに、環境省、地方公共団体、港湾管理者、事業者、施設管理者等が連携して、発見された地点や輸送途中でコンテナが一時保管された地点において、トラップやベイト剤の設置、目視点検を実施しており、本組合からも必要に応じて、薬剤等の提供を行っています。

荷主や港湾運送事業者等との連携は、日頃から識習会等が実施されていますが、直近では本年1月に、環境省が実際の防除を行うための参考となる「ヒアリの防除に関する基本的考え方」を公表し、2月に名古屋市内で同省が主催した「ヒアリ講習会」において、地方公共団体、港湾管理者、港湾関係者等との情報共有が図られています。

個人輸入等の貨物混載コンテナの安全管理は？

【山口議員】新たに発見されたヒアリは混載コンテナを経由してやってきたとみられます。名古屋港では輸入コンテナが年間120万TEUに達しますが、個人輸入等の貨物混載コンテナはどれくらいあり、その安全管理は誰がどう責任を負っているのか、混載コンテナについての現状をどう把握しているか。あわせて教えてください。

ヒアリ等の侵入を防ぐための根本的な解決には輸出する国での防除対策、積出港での対策が不可欠です。このことは国へも要望してきたと思いますが、現在その対策はどこまで進んでいるのか。教えてください。

荷主を特定する情報が入手できず、混載コンテナの数量は把握できない。荷主等に注意喚起している（部長）

【港営部長】コンテナ輸送には、単体の荷主で一本のコンテナを満たしたものと、複数の荷主の貨物が混載されたものがあります。名古屋港の外貿輸入コンテナは年間約120万TEUある中、統計法に基づき、港湾関係者より、貨物の品目、仕出国等についての情報を得ていますが、荷主を特定する情報は入手できないため、混載コンテナの数量を把握することはできません。

物流が多様化し、様々な形でヒアリ等の混入が想定される中、コンテナの安全管理は、荷主や物流関係者に、本組合からも文書やホームページ等で注意喚起を行っている。

国への要望と国からの対策状況は

【山口議員】愛知県からも国へ要望していますが、侵略性が高い新たな外来種が発見された場合は、特定外来生物への指定を速やかに行うことが必要です。日本列島の環境と生態系を保全するためにも、特定外来生物等の侵入と定着を水際で防ぐことが大きな課題です。そこでうかがいます。

今回、ブラウジグアントの侵入を許し、かつ今回のヒアリ騒動までそれに気づけなかったのはなぜですか。の教訓をどう今後に生かしますか。

積出港での対策を含めた総合的な施策や財政的支援を要望（部長）

【港営部長】積出港での対策を含めた総合的な施策及び財政的な支援については、県・市・本組合それぞれの議会議長から環境大臣及び国土交通大臣へ緊急要

望をはじめ、愛知県知事から国土交通大臣への緊急要望、六大港湾協議会を通して行った国土交通大臣への緊急要望などを行っています。

積出港での対策は、環境省による「日中韓三カ国環境大臣会合」や「ヒアリ防除等に関する専門家会合」等において議論が進められている段階ですので、引き続きその動向を注視していきます。

それ以外の総合的な施策としては、国土交通省がヒアリの生息環境となり得るコンテナターミナルの舗装の亀裂を補修する緊急工事を昨年度実施したほか、環境省及び国土交通省においてヒアリ等の全国的な生息調査が今年度も引き続き実施されると聞いています。

財政面での支援では、ヒアリの定着防止を図るため国土交通省が創設した補助制度を活用し、コンテナヤードの舗装改良を進めていきます。

アリクイアリを特定外来生物に指定を。港の環境部門の強化を

【山口議員】まずはこのアリを特定外来生物に指定するよう、港湾管理者からも国に働きかけるべきではありませんか。

国境を越えた交易を担う国際港湾では常に新たな外来種が侵入する可能性があります。管理組合としても環境部門の強化を図るべきと考えますがいかがですか。答弁を求めます。

国に対して「特定外来生物への指定の検討」を要望。関係機関との連携を強化して水際での防除に取り組む（部長）

【港営部長】ブラウジングアントは、昨年、名古屋港において、国内で初めて生息が確認された外来種のアリです。ヨーロツパ原産で、オーストラリアのほか、マレーシア、インドでも確認されています。

ヒアリのように人への直接的な被害はありませんが、生態系に大きな影響を与える可能性が高いことから、水際を管理する港湾管理者として、愛知県及び生息が確認された弥富市、飛島村が行っているコンテナターミナルや臨港道路、臨港緑地における調査・駆除に協力をしています。

ブラウジングアントの確認を受け、昨年11月には、愛知県から国に対して「侵略性が高いと考えられる外来種が発見された場合は、特定外来生物への指定の検討を迅速に進めること」との要望がされました。

港湾を主な侵入経路とするこれらの特定外来生物等への対応は、国際港湾として膨大な貨物を取り扱う中、

海外からの侵入を防ぐことは難しい課題ですが、名古屋港で働く方々や来訪される方々の安全・安心の確保に向け、今後も、コンテナターミナルや臨港道路、臨港緑地等の調査を引き続き行うとともに、環境省、国土交通省、愛知県、名古屋市をはじめとする関係機関との連携を一層強化することにより、水際での防除に取り組んでいきたい。

ヒアリ等の対策で、港湾管理者の責任と役割をどう果たすべきか、様々な連携をどう調整して進めていくのか（再質問）

【山口議員】コンテナには、誰の、どんな貨物が、どんな状態で入っているか、混載コンテナの実態が港湾管理者では把握しきれていない、との答弁でした。

物流をスムーズにするためにコンテナ輸送を軸にした効率的な港湾づくりが進められてきましたが、その負の側面として、外来生物の侵入が、従来の予想を超える規模で発生しかけています。

神戸市のマニュアルを紹介しました。市民県民にもっと見える形で共通対策を示すことが必要ではないでしょうか。この対策、管理組合ですべて請け負え、とは言いません。

しかし、港の大事な問題だ、しっかり取り組みましょう、と港湾運送業界や国や県などの行政機関を共通の方針でまとめていくには、やはり名古屋港管理組合がイニシアチブをとるべきではないか。

環境面の体制強化を提案しましたが、連携に努める、だけでなくみなさんがたの誰かが全体の司令塔になってしかるべきだと私は思います。

ヒアリ等の対策について港湾管理者としての責任と役割をどう果たすか、様々な組織との連携をどう調整して進めていくのか。答弁を求めます。

環境省、国土交通省、愛知県、名古屋市、関係市村、港湾関係者等との連携を一層深め、水際の対策をより確実なものにしたい（部長）

【港営部長】港湾管理者の責任と役割としては、水際でのヒアリ定着防止及び港湾関係者や来港者の安全・安心を確保することと考えています。

そのための主な取り組みとしては、「侵入監視」、「生息状況調査」、「侵入を確認した場合の確実な駆除」となりますが、本組合だけで全てについて対応することは困難です。このため、必要に応じて情報提供、意見交換の場を設けていただけるよう積極的に働きかけることで、ヒアリ対策を担う一員として、環

境省、国土交通省、愛知県、名古屋市、関係市村、港湾関係者等との連携を一層深め、水際の対策をより確実なものとしていきたい。

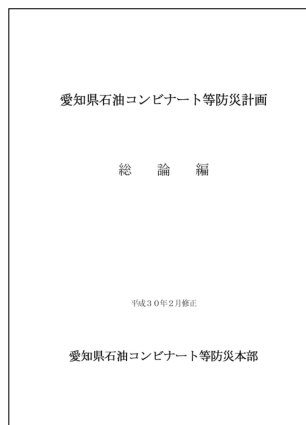
緊急の課題でなく不断に取り組む業務として取り組みを（意見）

【山口議員】港の機能を維持し、信頼を高めるための重要な業務です。緊急の課題でなく不断に取り組む業務ということだと思います。しっかり取り組んでください。

石油コンビナート 災害対策について

特別防災区域に指定されている名古屋港臨港地区

【山口議員】愛知県石油コンビナート等防災計画では、名古屋港臨港地区が特別防災区域に指定されています。コンビナート防災は県の所管事項ではありますが、港の安全を守る立場から名古屋港管理組合も当然、積極的に関与すべき課題です。



長周期地震動による浮き屋根式危険物タンクの災害対策の進行状況は

様々な危険物群と様々な災害想定が計画には盛り込まれていますが、私がずっと気になって仕方がないものの一つが、浮き屋根式の危険物タンクの長周期地震動による災害です。

防災計画には「平成15年の十勝沖地震では、長周期地震動によって危険物タンクの浮き屋根損傷や沈降に伴うタンク火災・・・浮屋根上に流出した油がドレン配管を通して外に流出した事例が見られた・・・東日本大震災においても火災には至っていないが、浮屋根の損傷（沈降を含む）や内部浮き蓋の損傷が発生している。一般的に大容量のタンクの方が長周期の固有周期になる傾向があり、スロッシングが発生する可能性が高い。」「貯蔵量が1万キロリットル以上の危険物タンクが名古屋港臨港地区（名古屋市、知多市、飛島村）及び渥美地区（田原市）に所在し、災害が発生する可能性がある。」としています。そして危険物タンクの安全性の課題として、タンクの使い方（液高管理上



限値の見直し）、泡消火薬剤の備蓄増強、耐震化の促進指導の三点が指摘されています。そのほかにも、地盤改良、側方流動対策、地盤液化化対策も重要との指摘があります。

耐震化については、特定屋外貯蔵タンクの耐震改修期限は2017年3月でしたが、とりあえず稼働中のタンクについて100%耐震改修は済んだとお聞きしました。タンクの液高管理は各企業でも検討されています。そこで今回は主に消火体制について質問します。

空見ふ頭タンク火災時の金城ふ頭の避難誘導計画はどうなっているのか

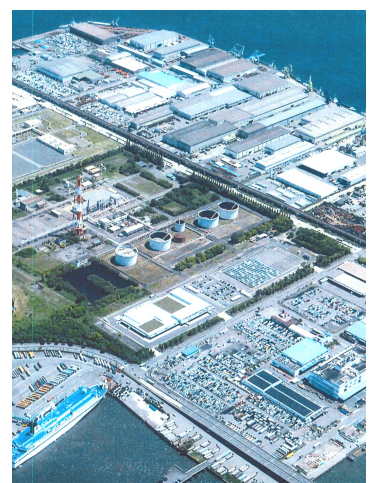
気になるのは、金城ふ頭のすぐ北、空見ふ頭の南側に立地する中川物産名古屋第二油槽所の4基の大型タンクです。防災計画では、長周期地震動によるタンク全面・防油堤内火災の放射熱影響距離が約290mとなっています。

いま金城ふ頭は名古屋における人々の交流拠点として、多くの滞在者が訪れる場所となってきました。

空見ふ頭のタンクヤードが火災になると、風向きによっては金城ふ頭と市街地をつなぐ道路もあおなみ線も使用できなくなるのではありませんか。

タンク火災時の金城ふ頭からの避難誘導計画はどうなっているのか。避難計画は各自自治体の所管ですが、港湾管理者として、どう認識していますか。

空見ふ頭の
浮き屋根式大型タンク



浮き屋根の損傷・沈降でタンク全面・防油堤火災が発生するが、放射熱の影響は防災区域内にとどまる見込み。拡大の恐れがある場合は市、県警、海上保安部が連携して避難誘導

【危機管理監】愛知県石油コンビナート等防災計画で、本組合は、関係機関と連携し、海上における流出油等の防除活動や災害拡大の防止活動を行う役割を担っており、毎年開催される石油コンビナート等防災訓練に参加し、協力体制の確立や防災体制の強化を図っています。

愛知県が平成25、26年度に実施した「愛知県石油コンビナート等防災アセスメント調査」によると、空見ふ頭では、浮き屋根の損傷・沈降によりタンク全面・防油堤火災が発生するが、放射熱の影響は防災区域内にとどまるものとなっており、周辺道路やおおなみ線への影響はないと考えています。

しかし、災害が拡大する恐れがある場合は、周辺道路やおおなみ線の規制も想定されており、その際は、愛知県石油コンビナート等防災計画に基づき、名古屋市、愛知県警察、名古屋海上保安部が連携して避難誘導を実施することとなっています。

空見ふ頭にも泡消火剤を備えておくべきでは？

【山口議員】火災に備える切り札は泡消火システムです。各事業所には所定の消火体制が備えられています。防災計画を見ると、空見ふ頭にも、潮見ふ頭（9号地）にも県の泡消火薬剤貯蔵施設がありません。

金城ふ頭の安全性を担保するうえで、少なくとも空見ふ頭にも一定規模の泡消火剤を備えておくべきではありませんか。答えてください。

特定事業者が泡消火薬剤を備蓄することになっている。名古屋市も金城ふ頭などに分散備蓄している（危機管理監）

【危機管理監】特別防災区域内の特定事業者は、石油コンビナート等災害防止法及び愛知県石油コンビナート等防災計画に基づき、貯蔵量等の規模に応じ必要な

消火用薬剤等の防災資機材を備蓄することが定められており、泡消火薬剤を備蓄していると聞いています。

市町村は消防庁の指針に基づいて泡消火薬剤を備蓄することとなっており、愛知県、石油コンビナート等防災計画には表記がされないが、名古屋市は金城ふ頭及び潮見ふ頭に分散し備蓄していると聞いています。

泡消火薬剤貯蔵施設は、愛知県が消防力を補完するために設置しており、空見ふ頭及び潮見ふ頭で火災が発生した場合は、昭和ふ頭の泡消火薬剤貯蔵施設に備蓄している薬剤で補完すると聞いています。

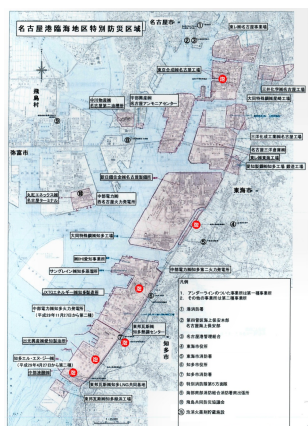
大容量泡放射システムを四日市だけでなく、名古屋港にも配備すべきでは

【山口議員】泡消火システムについては、さらに大規模な火災に備えて、全国12地区に大容量泡放射システムの配備が義務付けられています。

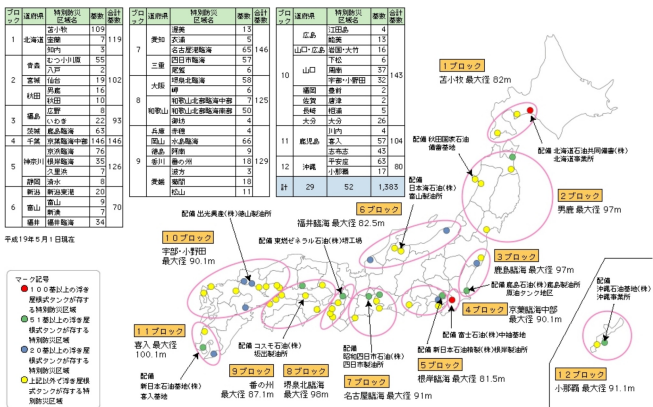
伊勢湾では四日市にある中京地区広域共同防災センターに配備されていますが、愛知県下には全くありません。そこですかがいます。四日市に備えてある大容量泡放射システムは、大規模災害時に名古屋港で迅速に稼働できるのでしょうか。

南海トラフ巨大地震では四日市港と名古屋港で同時に大規模な火災が発生することを想定すべきです。同じ地震と津波が伊勢湾を襲います。同時多発的な被害発生は想定していないのですか。大容量泡放射システムを名古屋港エリアにも配備する必要はありませんか。

愛知県コンビナート防災計画に示された泡消火剤貯蔵施設配置図



面港地区特別防災区域 ⑤: 泡消火剤貯蔵施設



大容量泡放射システム備付け基準

浮き屋根式屋外貯蔵タンクの直径	基準放水能力
34m以上 45m未満	毎分 1 万㎡
45m以上 60m未満	毎分 2 万㎡
60m以上 75m未満	毎分 4 万㎡
75m以上 90m未満	毎分 5 万㎡
90m以上 100m未満	毎分 6 万㎡
100m以上	毎分 8 万㎡

中部電力渥美火力発電所と尾鷲三田火力発電所の中間である四日市市に配備

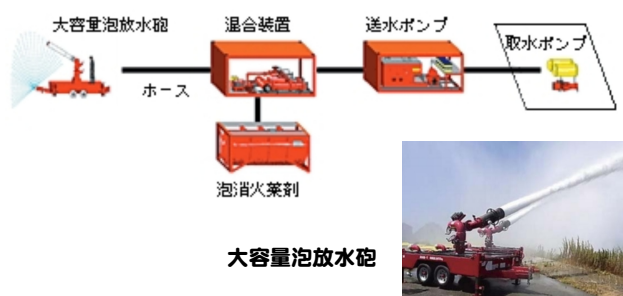
【危機管理監】大容量泡放射システムは、大容量泡放射砲、ポンプ車、泡消火薬剤等を備え、通常の大規模化学消防車の10倍程度の放水能力を有するもので、石油コンビナート等災害防止法及び同施行令に基づき、直径34m以上の浮き屋根式屋外貯蔵タンクを保有する事業者に配備が義務付けられています。

1つの事業所で維持管理するには多額の費用が必要となるため、全国を12のブロックに分け、複数の事業所が共同で防災組織を設置しています。

当該システムは、タンク火災の約20時間後に発生するとされる爆発的な拡大燃焼を防ぐことを目的とし、愛知県、三重県の事業所が所属するブロックでは、中部電力株式会社の渥美火力発電所と尾鷲三田火力発電所の中間に位置する四日市市の中京地区広域共同防災センターに当該システムを配備し、資機材の輸送計画を含めて災害に備えていると聞いています。

愛知県石油コンビナート等防災計画によると、名古屋港への輸送時間は、空見ふ頭まで約1時間、最も遠い南浜ふ頭でも約1時間30分とされています。

万一、中京地区広域共同防災センターから名古屋港への輸送が困難な場合は、近隣ブロックへ協力要請を行い、同様の泡放射システムを輸送し、消火活動を行うものと聞いています。



災害時には実際、どれだけの船舶が災害対策に動員できるのか

【山口議員】最後に、コンビナート防災計画における管理組合の役割についてです。名古屋港管理組合の役割は水門管理と海上災害対策など非常に限定的です。実際にはもっとやること、やれることがあるのではないか、と思います。

さて計画をみると、海上災害対策では、流出油関係協議会や災害時における曳き船による応急対策業務に関する協力協定などにより、組合所有船舶と協定に基づく船舶の協力に対応する、となっています。そこで

簡潔にうかがいます。

想定される海上災害対策とは具体的には何ですか。そして災害時には実際、どれだけの船舶が災害対策に動員できるのですか。民間所有の船舶頼みになってはいませんか。



組合所有船舶8隻、流出油関係業務委託の受注者所有の船舶及び名古屋港タグ事業協同組合との協定によるタグボート23隻が出動

【危機管理監】愛知県石油コンビナート等防災計画に基づき、港湾機能に支障を来す恐れがある場合、又は名古屋海上保安部若しくは市町村から本組合に協力を求められた場合、本組合所有船舶8隻、流出油関係業務委託の受注者所有の船舶及び名古屋港タグ事業協同組合との協定によるタグボート23隻が出動に備える体制をとっています。

操業実態と開発による変化をふまえて対策を。名古屋港に関する防災情報は、わかりやすい元素的な情報に加工して、関係者が共有を（意見）

【山口議員】空見ふ頭での備えですが、金城の開発が進めば進むほど気になります。いちばん東のタンクと金城ふ頭線、あおなみ線とは至近距離です。現場で距離感を感じてください。

心配するのは道路と鉄道だけではない。隣接エリアにはモータープールも広がっています。火災の影響をまともにかぶります。ここへの立地は企業にもリスクが高いのではないかと。幸い、いまタンク4基すべてがフル稼働はしていません。操業実態と開発による変化をふまえて対策を立ててください。

ちなみに名古屋港臨港地区では、潮見ふ頭だけが、爆発物その他の危険物を取り扱わせることを目的とする保安港区です。ところが現在、潮見ふ頭では危険物タンクはかなり減りました。空見ふ頭のタンク群が市内唯一の大容量危険物タンクです。都市計画、臨港地区の分区の課題としてもよく検討していただきたい。

空見ふ頭の南側、橋を渡ってすぐ西に、名古屋市消防局の特別消防隊第5方面隊が置かれています。消防艇が配備されています。名古屋市消防局が備蓄している泡消火剤の多くがここにありますが。しかし県の防災計画にはこの情報がありません。たいへんわかりにくい。

名古屋港に関する防災情報については、県や市とも

調整したうえで、港の防災マップのような形でわかりやすい一元的な情報に加工して、関係者が共有できるようにしていただきたい。このことも要望しておきます。

伊勢湾全体で予想される同時多発的な被害想定を共有し、取り組みを

【山口議員】爆発を防ぐために10時間で消す計画の中で、大容量泡放射システム、輸送時間は1時間から1時間半とのことですが、東日本大震災の際には、千葉県のタンク火災でシステムの輸送が計画では4時間だったが到着まで10時間を要した、と報告されています。

先日、四日市の中京地区広域共同防災センターで大規模泡放射システムを見てきました。運搬には10tトラック27台が必要で、トラック協会との協定し運んでもらう仕組み。稼働にも時間がかかる。資機材をトラックに積み込むのに2時間30分、到着後のシステム組み立てにも2時間かかります。

単発の火災ならともかく、大規模災害時にはこの巨大システムを名古屋港まで輸送し稼働させるのはたいへんだと感じました。

問題は、南海トラフ巨大地震など伊勢湾全体が同時に被害にあう災害への備えです。名古屋港も四日市港も地震と津波に襲われます。

泡消火システムを例に質問しましたが、伊勢湾を一つの港湾と見立てるのなら、コンビナート防災についても、県を超えて、伊勢湾全体で予想される同時多発的な被害想定を共有し、取り組む必要がありませんか。再度答弁を求めます。

都道府県が石油コンビナート等防災計画を作成し、特別防災区域の防災を実施。中京地区広域共同防災組織を設置して、大容量泡放射システムを配備している

【危機管理監】石油コンビナート等特別防災区域に係る災害の防止は、当該都道府県が石油コンビナート等防災計画を作成し、特別防災区域に係る防災を実施していく。

伊勢湾では、浮き屋根式屋外貯蔵タンク全面火災の発生及び拡大を防止するために、愛知県及び三重県の事業者が連携して、中京地区広域共同防災組織を設置して、大容量泡放射システムを配備している。

本組合としても、港湾管理者として、愛知県をはじめとした関係団体と連携し、港の防災にしっかりと取

り組む。

大規模泡放射システムの訓練には管理組合も積極的に関わるように（意見）

【山口議員】十勝沖地震による苫小牧の浮き屋根式タンク火災から15年。コンビナート防災のうち浮き屋根式タンクの火災への備えは一定程度整えられてきたと思います。

大規模泡放射システムの訓練は名古屋港エリアでも行われていると聞いています。民間ベースの訓練ですが、ぜひ管理組合も積極的に関わっていただきたい。

名古屋港としての課題と対策を整理し、民間も役所も、市民・県民も共有できるように、防災マップなり対策マニュアルなり目に見える形に（意見）

【山口議員】二つの課題に共通しているのは、ヒアリもコンビナート防災も、名古屋港の大きな課題なのに、管理組合単独で対応できることは非常に限られているということです。

民間事業者から、関連業界団体、市や県、国との連携でしか問題が解決できません。それぞれ一生懸命取り組んでいると思いますが、名古屋港ではどうなっているのか対策の全体像が見えにくいことが共通する課題です。

名古屋港としての課題と対策を整理して、民間でも役所でも、市民県民も共有できるように、防災マップなり対策マニュアルなり目に見える形にまとめてください。

管理組合としての存在感を示していただくよう重ねて要望して、質問をおわります。

2018年「6月14日 中日新聞

地震で灯油漏れ想定

港区 石油コンビナート防災訓練

石油コンビナートの災害に備えた防災訓練が十三日、港区潮見町であり、通報や消火など緊急時の連携を確認した。

市消防局や名古屋海上保安部、名古屋港管理組合など関係機関の約百二十人が参加。市内で最大震度7の直下型地震が起き、石油コンビナートの配管から灯油が漏れ出したと想定した。地震発生時の放送が流れると、会場となった兼松油槽の作業員や防災組織がタンクや配管の点検作業を実施。海に漏れ出した灯油の拡散を防ぐため、船を使って特殊なフエンスを海上に広げていった。消防と海保が海に転落した作業員を救出したり、余震の影響で起きた火災を船から消火したりする訓練もした。

（武藤周吉）



石油コンビナートでの火災を想定した訓練＝港区の兼松油槽・名古屋油槽所で